

## 「(仮称)世田谷区立二子玉川公園内日本庭園」現場見学会

報告者：施工技術部会 小松

日 時 : 平成 25 年 1 月 12 日 (土) 10:00~12:00  
場 所 : 東京都世田谷区玉川一丁目地内 (仮)二子玉川公園  
講 師 : 株式会社戸田芳樹風景計画代表取締役 戸田芳樹氏  
高崎設計室有限会社代表取締役 高崎康隆氏  
石勝緑進建設共同企業体所長 山崎学氏

参加者数 : 37 名

内 容

### 1. 概 要

(仮称)二子玉川公園は、国分寺崖線のみどりや多摩川のみずを結ぶ「みずとみどりのネットワークの拠点」として現在整備が進められている。世田谷区が発注、石勝緑進建設共同企業体が施工。工事期間：H24 年 4 月～H25 年 3 月。総工費：約 8.4 億円。

今回は公園内の日本庭園を中心に整備段階の現場を見学した。講師として公園の設計者である戸田芳樹氏、高崎康隆氏をお招きし、庭園のコンセプトや作庭技術等について解説していただいた。

### 2. デザインコンセプト

庭園は南北を長軸とした池を中心に置き、富士山の眺望、多摩川の水辺、国分寺崖線といった公園の場所性を日本庭園の中に取り入れるつくりとなっている。庭園西側に富士見台と富士塚という二つの視点場を設け、そこから庭園を東西に横切る二つの視線軸(富士山軸)と庭園北側の山エリアより渓谷、滝を経て緩やかに池へと流れ込む水の流れを表現した多摩川軸(南北軸)が庭園の主要な景観軸となっている。



園内にはユニバーサルデザインが多く取り入れられており、スロープのほか、車イスでも利用できる立ち蹲、レイズドベッドなども設置されている。また、京都の庭に対して江戸・東京の庭づくりをコンセプトとして置き、スタジイやエドヒガン、筑波石などの東京でなじみ深い樹種、石材を使用している。



左上：富士見台 右上：富士塚  
左下：富士見台から庭園を見下ろす  
右下：立ち蹲

### 3. 施工技術と材料の解説

石材として主に使用しているのが根府川石、筑波石、黒ぼく石、みかほ石、榛名石の5種の石材で、どれも関東で採れる石である。奥多摩湧水のエリアには青色系のみかほ石、池へと続く瀑布滝には赤い色合いの根府川石を使用するなど、場所により石材を使い分けている。これら国内産石材は中国産材に圧迫され調達が困難になっている。流通システムや石組などの施工技術を守っていく上でも、造園工事において積極的に伝統工法や国内資材を取り入れていくことが、求められている。



みかほ石による滝石組



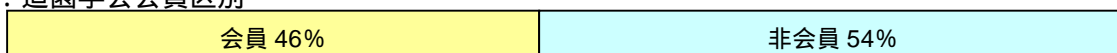
根府川石による滝石組について解説する講師の高崎氏



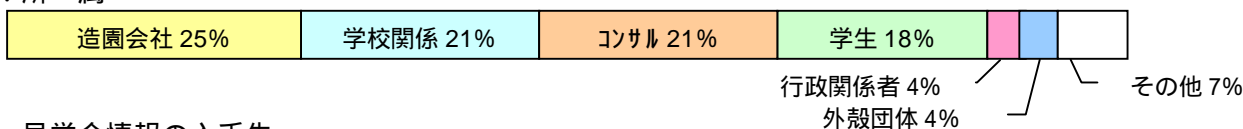
東屋脇のスタジア

#### 参加者アンケート集計

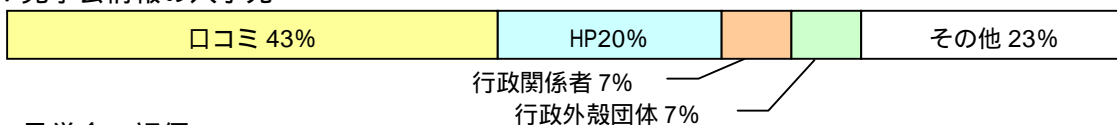
##### 1. 造園学会会員区別



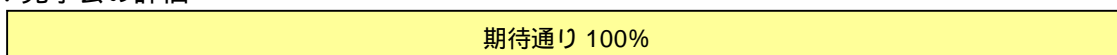
##### 2. 所属



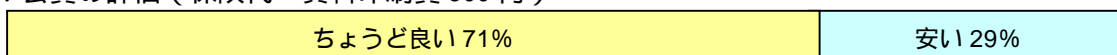
##### 3. 見学会情報の入手先



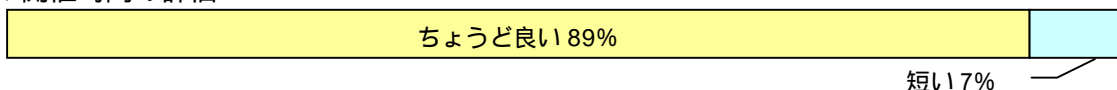
##### 4. 見学会の評価



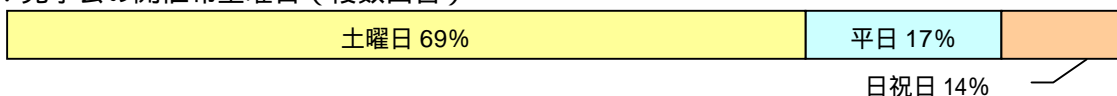
##### 5. 会費の評価（保険代 + 資料印刷費 500 円）



##### 6. 開催時間の評価



##### 7. 見学会の開催希望曜日（複数回答）



##### 8. 今後期待する行事（複数回答）

